

第43回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会
ランチョンセミナー

形成外科医と皮膚科医から見た 機器による美容医療の有望性と展望

座長

昭和医科大学 形成外科 准教授

高木 信介 先生



Session 1

患者満足度向上のためのコンビネーション治療のすすめ

あらおクリニック青葉台皮膚科・
形成外科 院長

荒尾 直樹 先生



Session 2

機器治療における高周波の活用と臨床効果

セイコメディカル
ビューティクリニック 理事長

曾山 聖子 先生



日 時

2025年

10月12日(日) 11:55~12:45

会 場

第1会場 (ライカ南国ホール)

鹿児島県鹿児島市中央町19-40 Li-Ka1920

Session1

患者満足度向上のための コンビネーション治療のすすめ



あらおクリニック青葉台皮膚科・
形成外科 院長

荒尾 直樹 先生

Profile

2002年 昭和大学（現昭和医科大学）医学部 卒業
2002年 昭和大学藤が丘病院形成外科入局
2009年 青山ラジュボークリニック院長
2012年 あらおクリニック開院
2022年 あらおクリニック青葉台皮膚科・形成外科開院（移転） 現在に至る

美容治療において、各治療法における効果は様々であり、対象とする症状は得手不得手は存在するため、治療法を適切に組み合わせることは理にかなっている。加齢により顔面の皮膚は弛緩し、脂肪とともに下垂し下顔面のボリュームは増大しホームベース型変形をきたす。これら顔面の複合的加齢変化に対し、機器を用いた治療をベースに、フィラーやスレッド、肌治療などを行い総合的に外見を改善することでより良い効果が得られ、患者満足度は向上する。

RF（高周波）やHIFU（高密度焦点式超音波）はそれぞれ顔面輪郭の引き締め・引き上げに有効な治療法であるが、減少した組織のボリュームを増やすことは不得手である。フィラーを用いた注入治療は組織のボリューム改善に効果的であるが、使用量が増えると特異な顔貌を呈するリスクがある。

具体的な治療の順序は、まずRF/HIFUで下垂した組織の引き締め・引き上げを行う。次いでフィラーを用いて必要な部位にボリュームを付加することでフィラーの使用量を増やさず効果の最大化が可能となる。脂肪の下垂を改善するためにスレッドを使用するのも有効である。

各治療法の特徴をよく理解した上、カウンセリングを通じ効果に対する期待度を医療者と患者側ですり合わせておくことで、過度な期待が生じず信頼が醸成されると演者は考えている。

Session2

機器治療における 高周波の活用と臨床効果



セイコメディカル
ビューティークリニック 理事長

曽山 聖子 先生

Profile

2001年福岡大学医学部卒業
2002年福岡大学病院皮膚科入局
博多駅東クリニック皮膚科部長
大手美容外科院長就任
2006年セイコメディカルビューティークリニック開院
2016年セイコメディカルビューティークリニック福岡院開院 現在に至る

美容医療における加齢性変化への対応として、外科的治療や注入療法は重要な選択肢である一方、近年では皮膚の質感や自然な輪郭形成を重視した非侵襲的治療の有用性が再認識されている。中でも高周波（RF：Radio Frequency）を用いたエネルギーデバイスによる治療は、安全性が高く、組織再生を促す手段として注目を集めている。本講演では、高周波機器を用いたたるみ治療において、特にモノポーラとバイポーラの組み合わせによる表皮層への熱作用に着目し、即時的なタイトニング効果と、真皮への熱伝達による中長期的なコラーゲンリモデリングによる有効性や肌質改善まで検討する。

※ 本講演には薬事未承認の内容を含みます